

東京駅には 22:28 の到着であるが、この時間でも昼とまったく同じく多くの乗客で混んでいた。

東京駅の のりば案内を見ると、地上には ~ と、 ~ 23 となっており、 ~ 番線を探したが、欠番になっており見つからなかった。

番線 ホーム は、品川、名古屋、京都、新大阪、大阪、岡山、広島、博多駅などの主要な駅には必ずあり、仙台駅にも新幹線のりばとしてあった。

東京駅のりば ホーム の採番には、何か理由があるのかと考えたが分らなかった。

特に、 番線のりばがなかったので、“東京裁判”で決めたいと思った。

正に、“東京裁判”ならぬ、“東京採番”であった。

今日も本来であれば、東京駅発 23:43 の「快速 ムーンライト ながら」を利用したかったが、この後の「快速 ムーンライト えちご」を含めると、3 レンチャン の夜行列車になるのであった。

またまた、“0 泊 3 日”になるからだ。

また、風呂の問題もあり、夏の旅は 2 日と風呂に入らないとチョットばかり大変であった。

ふと、以前に利用したことがある「カプセル ホテル」を思い出し、急きよ、錦糸町駅に行く。

東京駅発 22:53 で東京駅 - 錦糸町駅間 4.3 Km の総武本線に乗る。

途中に馬喰町「ぱくろちょう」と言う駅があり、何と マイナス 30.6 m と地下駅としては「日本一低い地下駅」であった。

暗かったけれど、地下から地上に出た瞬間の気持ちは青函 トンネル に“勝るとも劣らなかった”。

錦糸町駅は、「キンシチョウー！、キンシチョウー！」の音が久しぶりの下車した為か緊張して、「キンチョウ！、キンチョウ！」と聞こえ一瞬、謹聴(きんちょう)して駅の放送を聞いた。

錦糸町駅は以前には本所と呼ばれていた時期があったらしいが、“本所そこらに”にある駅ではなかった。

駅前の交番「こうばん」で“今晚わ(こんばんは)”と大きな声で訪ねると、今でも営業していると言うことで道順を聞いてチェックイン？した。

東北新幹線が開通してからは、日帰りの出張が多く利用したのは久しぶりである。

勿論、無職になってからは初めてであり無職の小生には悔しいけれど似合ってたかも知れなかった。

大きな風呂に大満足するが、相変わらず小さな部屋に不満をしながらも テレビ を静かに見ながら少し早めの カプセル に入る。

かなり以前は、仙台から東京へ出張は必ずと言って良いくらい「3 段式の寝台車」であった。

列車の名前は「寝台急行 新星」であり、当時の小生は真正で神聖な気持ちで利用していたことを思い出した。

まるで、この寝台車に寝ている気がして懐かしく思いながらいつの間にか寝てしまった。

3 度目の挑戦で伊東線に乗れた喜びと、鶴見線の乗車にあきれ返っている自分を夢の中で葛藤をしていた。